MONTHLY ESSAY INUMO-ARUKEBA by INUHIKO YOMOTA

犬も歩けば

四方田犬彦

連載第63回

緑雨賞をもらう

VOLUME 63

ILLUSTRATION BY:やまだ紫

一月十二日

中上健次の『千年の愉楽』の映画化権を所有しているという女性と、新宿二丁目のソバ屋で会う。死の直前に許可をもらったという。石井辰彦、北島敬三、夏石番矢、丹野清和らも来る。四人登場する美少年を誰に演じさせるかという話。原田芳雄が『日輪の翼』の映画化を企画中とは聞いていたし、脚本も目を通しているが、こちらの方はどうだろうか。

一月二一日

『ドルズハウスの映画館』(悠思社)の見本を手にする。たぶんこれが僕の最後の映画時評集となるだろう。可愛らしくまとまった。東大の教養学部の総合講座で、日本の怪獣映画について喋る。昨年、韓国の総合雑誌に書いたものの焼直し。ジュリエット・ビノシュの新作『ダメージ』の訃報を知らされた。一九五〇年代の、僕の母親たちの世代が競って『麗しのサブリナ』や『ローマの休日』に憧れ、ヘップバーンの髪形を真似ていた頃のことを思いだす。ビノシュもいつかそんな風に回想されることがあるだろうか。

一月二三日

夏石番矢と「ユリイカ」中上健次特集号のための対談。中上の幽霊がどこに出現した、誰が見たという話になる。新宮の昔の地図が見たいと思う。帰ると、高梨豊の新しい写真集『初國』が到着していた。ふと見開いた頁に再開発途上の新宮駅付近が写っていた。断崖の左右に階段が駆け登り、下に鉄道の線路が敷かれている。中上が『熊野集』を書いているころの、まさに永山が切り崩される最中の光景がある。偶然に驚く。

一月二六日

山形工芸大学に講演に呼ばれて、ばったりと民族学者の赤坂憲雄に出喰わす。柳田を批判的に読み、遠野を研究するため、東北の地で教えることを選んだという。

一月二七日

僕に献辞のある佐藤紘彰の『アメリカ翻訳武者修行』(丸善)が到着する。NYの佐藤さんは今何をしているのだろう。たしか「ユリイカ」に中上の英訳のあり方についてエッセイを寄稿する予定と聞いているが……。

一月三一日

渋谷のシードホールで第三回フリクシュナルムーヴィーフェスのため講演。六〇年代以降の日本映画に登場するアジア人を、東宝の香港人、日活の謎の中国人、東映の在日朝鮮・韓国人に区分して説明し、島耕二の遺作『ラーメン天使』や宝田明・尤敏(ユーミン)コンビの『香港の星』シリーズに言及する。つねづね日本映画が在日外国人をどう表象してきたかをめぐって連続上映とシンポジウムを開催したいと考えてきた。今回の企画はその前哨戦である。

二月一日

夜、三重県鈴鹿市より電話があり、第一回緑雨賞に『月島物語』が選ばれたと知らされる。斎藤緑雨の名はかねてより聞き及んでいたし、彼について短い文章を綴ったこともあったが、賞があったとは知らなかった。小説家のためには賞はいくらでもあるが、批評のための賞はない。賞のことなどまったく眼中になくこれまで書いてきたというのが本当のところで、驚く。同時受賞が平岡正明だと聞いて、二度びっくり。僕は平岡さんの本を『ジャズ宣言』のころからもう二十年以上も愛読しており、二人でいっしょに本を作ったこともあるからだ。これは傑作だと思う。

二月三日

人に誘われて、下北沢に身体障害者のプロレスを見に行く。なんでも施設のなかでプロレスに熱狂的な身障者が、大学アマレス部のヴォランティアの協力を借りて始めたイヴェントらしい。四人の身障者レスラーのトーナメントで『世界最強の身障者』を決定する。

ゴングが鳴っても、リングの上には誰も立っていない。脳性マヒを患った二人のレスラーは当初からマットに這い、寝技と廻し蹴りである。負けた方はロックンローラーでもあって、試合

が終わると「俺にはでも歌がある」といって、マイク片手にシャウトしだした。四人のなかでレスラーとして一番華があるのがサンボ慎太郎で、ストーンズの「黒く塗れ！」をバックに堂々と両手を振って入場してくる。最初は彼らの仕種のどこをとらえて笑ったり、声援を送っていいのか、正直のところ当惑するところがあったが、結局最後はやはりプロレスのノリとなった。同行したのは根本敬、小林よしのり、「SPA！」の渡辺編集長、ブライアン金子など。ショーがハネてからも近くの中華料理店で盛りあがった。

これはきわめてスキャンダラスな見世物芸であるが、断じて差別ではない。自主的に自分たちのエンターテインメント芸を観客に披露したいというレスラーたちの気持ちを理解せず、こうした興業を公共良俗のもとに封印しようとする動向があるとすれば、むしろその方が差別の名に値するだろう。それにしても僕は二時間にわたって身障者の一挙一動を、これほどまでに情熱をこめて眺めた経験があっただろうか。

二月十四日

第四回泉鏡花映画祭の二日目。マキノ正博の『阿片戦争』と、その原案となったグリフィスの『嵐の孤児』を続けて上映し、メロドラマ映画の研究家である加藤幹郎と対談する。『嵐の孤児』はいつもながらに澤登翠さんに弁士を勤めてもらった。

バブルが弾け飛んだおかげで、先年までのスポンサーが降りてしまい、今回の映画祭は資金繰りに腐心した。六本上映するはずのフィルムが五本に落ちたことは、何とも残念だが、逆に金沢劇場といういい場所を会場として借りることができた。少なくとも十年間は続けよう、と地元スタッフと話しあっているのだが、前途多難だ。来年は『高野聖』の作者にちなんで怪奇映画大会か、あるいは美少年大会か？

二月十九日

連合赤軍リンチ殺人事件の三被告をめぐって最高裁が二審を支持し、上告を棄却した。これで永田洋子と坂口弘の死刑は（何か途徹もない恩赦でも存在しないかぎり）確実となった。新聞報道によると、判決が読みあげられた瞬間に「おまえたちだって人殺しじゃないか！」と叫んで退場を命じられた女性が、一名存在したという。

浅間山荘は六〇年代の終焉を決定的に告知する事件だった。あのあと何もかもがひどく陰鬱になった。そうか、あれからもう二〇年以上経過してしまったのだなあという気持が胸を横切る。リンチ殺人事件のいったい何が解決されたというのか。僕はすべてを説得的に分析してくれる書物の出現を待っていたが、日本人の誰一人としてそれを実践した人はいなかった。一方、見渡してみると、マルカムXブームだ。六〇年代の黒人ラディカリズムをカルトヒーローに仕立てあげる連中は連合赤軍問題とどう折り合いをつけるのだろう。

二月二〇日

四十歳になる。運がよければ今までと同じくらい生きるわけになるのだが、その頃、つまり二〇三三年の日本は恐ろしく停滞した高齢化社会になっているだろう。そして老人たちは、半世紀前にそうであったようにビートルズを聴き、手塚治虫とつげ義春を繰り返し読んでいることだろう。

二月二六日

ポランスキーの『赤い航路』を観る。ピーター・コヨーテの渋い表情。人生と愛をめぐる絶望を描き、これほどまでに憎悪を賛美したフィルムも最近珍しい。映画時評を書くのをやめてから、スクリーンに向かうときいかに気が楽に、リラックスできるようになったことか。

二月二八日

横浜の野毛で平岡正明率いる「ハマ野毛の会」が緑雨賞のお祝いパーティを開催してくれる。近々ロンドンに留学する田中優子、上杉清文、梁石日など五〇名あまりが来る。関内アカデミーの福寿さんから、横浜の映画事情について話を聞く。二次会で、地下に水が貯ったため建物自体が斜めに傾いてしまった三階建てのバアに赴く。

三代目彫よしから面白い話を聞いた。最近ではヤクザが刺青を入れる率が減り、素人衆が急増しているという。とりわけロッカーが多く、メンバア全員が同じ刺青をする場合もあるようだ。人体の皮層は、瞼の裏に至るまでどこでも彫ることができるが、もっとも痛いのは足の裏や手の指の腹で、これは神経が密集しているためらしい。亀頭の先というのはそれほど痛くもないらしく、手で根元を押さえて彫れば簡単のようだ。

上野昂志の

黄昏映画館

第13回

イラストレーション★ユズキカズ

C・イーストウッドはある決定的な距離を痛みとして抱える

クリント・イーストウッドの『許されざる者』をやっと見ることができた。

この映画の話を初めに聞いたのは、たしか去年の春だったと思う。教え子の一人で、いまアメリカに留学している映画好きの男が、束の間の里帰りの折りに、クリント・イーストウッドがまた西部劇を作ったらしいですよと教えてくれたのだ。えっ、本当か、と聞き返したあと思わず、性懲りもなく、という言葉が口をついで出た。だってそうだろう。イーストウッドの新作が見られるということそれ自体が嬉しいのに、それが西部劇だなんて、思わぬプレゼントが二倍になったような嬉しさと同時に、それに匹敵する不安もあったからだ。

だいたい、いまのような時代に西部劇を撮ろうなどというのは、ほとんど無謀な試みというしかないのだが、クリント・イーストウッドは、それをやり続けてきた。しかも、それらはいずれも傑作ながら、ことごとく当たらなかったのである。この前の『ペイル・ライダー』にしても、わたしはこれを築地の松竹セントラルで見たのだが、その時、あの広い劇場で客は十数人しかいなかった。むろん、あれほどの傑作を映画館で見れなかった人は不幸というしかないし、ハナっから見る気のなかった連中はバカというしかないが、それにしても、ひでぇ状況だったのだ。

これは日本ばかりでなく、本国のアメリカでも同じだったらしい。だいたいアメリカでは、今度の『許されざる者』になって初めて監督としてのクリント・イーストウッドを評価する機運が高まりつつあるが、これまではひたすら無視してきたのだ。その点では、蓮實重彦がいうように、監督クリント・イーストウッドを世界に先駆けて評価したのは日本であり、十年遅れてフランスが、そしてさらに十年遅れてアメリカがやっと評価するようになったというわけだが、しかし日本といっても、イーストウッドは凄いといって騒いでいたのはわれわれごく少数の、互いに顔を知っている連中ぐらいで、興行的にはいつも惨敗に近い状態だったのだ。あの、わたしが一番好きな『センチメンタル・アドベンチャー』などにしても、初めは東京で公開されず、千葉だったか埼玉だったかで、細々と封切られたのである。

そんななかで、また西部劇を作るなどというのは無謀もいいところで、だからこそ、わたしは思わず性懲りもなくといってしまったのだが、しかし、そんなことは百も承知二百も合点で、なお、敢えてその無謀な戦いに乗り出してくるところに、クリント・イーストウッドの映画の魂ともいうべきものがあるのだ。まあ、今度は、あのアホなアメリカ映画界でも、『許されざる者』にアカデミー賞をという声が起こっているようだから、もしかすると興行的にも成功するかもしれないし、どうせなら大当りをとってもらいたいものだが、それと映画の価値はほとんど関係ない。だいたい、アカデミー賞などといったところで、この十年で、あの救いがたくバカなオリバー・ストーンが二度受賞している程度の賞なのだから、そんなものをクリント・イーストウッドが貰ったからとて、いまさら名誉になりはしないし、それで彼の孤立した戦いが癒されるというわけのものでもあるまい。

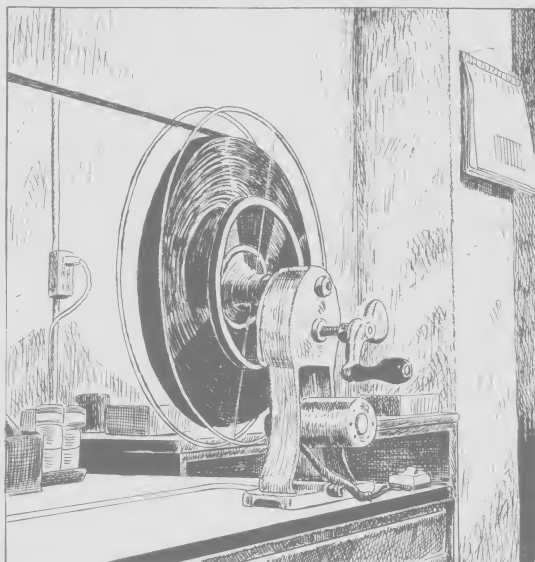
いや、むしろ、『許されざる者』という作品は、状況の変化などによっては決して癒されることのない、ある思いを伝える映画なのだ。その意味では、ここからは、イーストウッドのメッセージともいうべきものが、言葉にはしがたい感触として、あるいは重量としてたしかに伝わってくるのである。ただ、それをいま、言葉だけを頼りに伝えるにはどうしたらいいか。

たとえば、これが、紛れもない映画であるということは、初めの、重い雨のなかで「二階にビリヤードあります」という看板が写しだされ、キャメラがゆっくりパンしながら、その家の雨に濡れた石の壁をなめ、二階の窓に行きつく画面を見るだけでも十分に了解できるのである。夜の雨に濡れた石の壁をあんなふうに写しだすのは、映画でしかあり得ないという確信が、見るものをとらえるのだ。

あるいは、イーストウッドたち三人が、高台からお目当てのカウボーイを狙い撃つところ。銃声が響き、一人が足を撃たれ、他の連中が彼とは逆の崖下に身を隠しながら、撃たれた若者に、早く物陰に逃げろと叫びたてるが、なかなか動けずにいるところを、イーストウッドの仲間のライフルの名手であるモーガン・フリーマンが再度狙いをつける……というようなところは、それこそ、アンソニー・マンの五〇年代の西部劇の一場面を見るようなたしかな手応えがある。

だが、『許されざる者』が、最近のアメリカ映画では珍しく正真正銘の映画であり、しかも、『ダンス・ウイズ・ウルブズ』などというインディアンやエコロジーに色目を使った妥協的な代物とは違って、本物の西部劇であるということは、見る前から約束されていたことで、新人ならいざ知らず改めて驚くほどのことではない。問題は、むしろ、そこからはみだした部分にあるのだ。

たとえば、その若いカウボーイを撃つところであるが、高い位置からの狙撃という、アンソニー

illustration by Kazu Yuzuki

・マンを思わせる画面構成をしながら、そのあとの展開が違うのである。モーガン・フリーマンは再度ライフルを構え、狙いを絞りながら、撃つのをやめてしまうのだ。その逡巡に何の説明はなく、ただ彼の顔がアップになるだけだが、それを見たイーストウッドが、改めて狙いをつけて撃つのである。撃たれた男は苦痛を訴える。と、イーストウッドが、隠れている彼の仲間たちに、撃たないから彼に水を飲ませてやれといい、男たちはそうする。

こういう展開、いってみればアクションの速やかな連動に対する遅滞のようなものは、五〇年代の西部劇には見られなかったものであり、また、五〇年代の西部劇に対する遅れの自覚のもとに、それへの挽歌を奏でたサム・ペキンパーの西部劇とも、明らかに異質なものである。これは、いったい何なのか。むろん、遅滞だけが問題なのではない。たとえば、ジーン・ハックマンの保安官が、リチャード・ハリス扮するイングリッシュ・ボブという賞金稼ぎから拳銃を奪う場面に見られる暴力の凄まじさ。それはたんに暴力の描写そのものが、ペキンパーのように凄まじいというのではない。むしろ、暴力の質において、凄まじいというしかないような描き方をしているのである。つまり、そこには、圧倒的な優位に立つものが、正義の行使として振るう暴力の凄まじさがあるのだ。

フリーマンが撃ち殺すのを逡巡したこととハックマンが丸腰の賞金稼ぎを徹底的に痛めつけること、その間をわかつのは、どちらが正しくどちらが悪いということではないし、また、どちらがより人間的かということでもない。むしろ、みずからが何を負って、いまここにあるかという、その負い目の自覚である。フリーマンもかつては、同じような状況のもとで、苦もなく人を撃ち殺したのだろうが、自分がそうして生きてきたという自覚が、いまの彼をして撃つことをためらわせるのだ。そして、イーストウッドは、同じ自覚を持ちつつ、なお、娼婦の顔を戯れに傷つけた男たちを殺し、ハックマンを殺すのである。

これを物語レベルで強調しているのが、冒頭と最後に置かれた、イーストウッド扮する主人公を、彼と結婚し子供を残したまま死んだ女性の視点から語るエピソードであろう。一八八〇年、ワイオミングという文字とともに現れるこの場面は、画面としても美しい。夕焼けの空を背景に、一本の木のもとで墓を掘る男の姿をシルエットで写し、そこに、なんとかという女性が、列車強盗や残酷な殺人をした男と結婚し、農場をやりながら子供をもうけたが云々というナレーションが入るだけなのだが、それが、たんに物語の枠組みを示すというだけでなく、むしろ物語と主人公の距離を語り、ひいては物語に対する作り手の関係をも示すことになっているのだ。

いわば、そこでは、経緯も過程もまったく示されることのない結婚生活が、主人公を、それ以前の冷酷非情な行為から隔て、まただからこそ、その過去が彼のなかで決定的な負債として残されていることを表しているという点では、物語を動かす不可視の動因として作用しながら、同時に、そのような距離の自覚が、監督クリント・イーストウッドにとっての物語に対する、また西部劇に対する、構えを決めているのである。この距離の自覚はむろん、映画に対する、また、とりわけ西部劇というものに対する、ある決定的な遅れの自覚といい変えてもいいが、それが、過去へのノスタルジーにならずに、むしろ過去への負債として意識されているところが、クリント・イーストウッドを決定的に現在の作家たらしめているのである。その意味で、彼は、現在ではきわめて稀なほど倫理的な作家であるといってもいいが、その倫理性が、馬に乗ろうとして何度も落ちる主人公として、画面を活気づける形で現されるのは、やはり映画的な才能であろう。映画の最後に、セルジオとドンに捧ぐという文字が出てくるが、それを目にした瞬間、それまでこらえていた涙があふれて、画面がかすんでしまった。

映画「オートバイ少女」手帖

夜行列車に乗ってあっちこっちへ行くの巻

あがた森魚［MORIO AGATA］

また唐突に抽象的な書き出しになるが、どうも、自分の存在がどこにも定着していないというような状態が性にあう。地上の引力から少し解かれて、少なからず浮遊した状態。

例えば、僕は車を運転しないが、あらゆる滑走、滑翔している状態のものへはつい意識がいってしまう。例えば、乗物図鑑やプラモデルやブリキの機関車などから離れられないフェティシズムや幼児性。それとの関係性もつまるところは、肉体や意識を地上の引力から少しでも引き離してくれる、それら滑走滑翔するオブジェへの愛着ということでつながっているからなのだろう。

犬であろうが、鳥であろうが、象であろうが、それぞれの生き物に加えられてある物理学的重力と束縛。それに加えられるところの人間という知的でありエゴイスティックであるホモサピエンスの所有している業のようなものからこそ発想せられる滑走滑翔する発明物。そしてそれらへの渇望のようなもの。

人間は、他の動物にない物理学値に加えた立派な重力、あきれた重力、といった類を持っている……というわけなのか。

例えば、この僕だ。夜眠ることができない。いや、出来ないという幼年来からの自己暗示にかかっているだけのことなのだろうが。それは子供っぽい夜への恐怖から来ているだけなのかもしれない。

それを克服できずに、いや逃避しながら今日までやってきたのか。その逃避手段の最も手頃なものが二つある。一つは飲酒であり、一つは夜行列車に乗ることだ。もちろん読書をしたり音楽を聴いたり、冥想にふけったりという有意義な過ごし方だってある。

しかし、ふと活字から目が離れた瞬間や、音楽が止んだ瞬間に襲ってくる、まるで原始人が、素朴に抱く夜の恐怖に対する防御本能のようなものが、異常に働いてしまうのだ。

ならば宵っぱりの集うスポットへでも繰り出せばよかろうが、そういう場につきまとう嬉しく馨わしくまたキナ臭くもあるよしなし事が、本当は嫌いじゃないくせに、それでもわずらわしくもある。つまり、第三者に必要以上に意識をはらったり、束縛されたりするのもわずらわしいのだ。

何らかの形で不眠症らしきもので悩んだことのある人ならばこの辺の堂々巡りはちょっとはわかるはずだ。たかだか数時間の夜という魔から逃れるのがとてつもない地獄なのだ。そして、その地獄から抜けだす一番安易で通俗な方法がしばしば飲酒なわけだ。(もっとハードな薬剤のほうが有効な方もまあおられることだろうが)

☆　☆　☆

あえて、こじつけて、飲酒をスピリッツの溶液の重力を借りて自分の意識を水面下に混濁、沈殿させるセレモニーだと規定したら、その逆に、夜行列車に乗るということは、ジョルジュメリエスの月世界旅行めく嬉遊的滑走、滑翔セレモニーそのものにおもえるのだ。

スピリッツの力を借りる飲酒がデュオニソス的としたら、ナチュラルに飛翔できる夜行列車の旅はアポロン的とも言える。

夜行列車の旅は、もちろん寝台車でもいいのだが、やはり、座席車の方が夜行列車らしい。その時こそは、読書も冥想も自由自在で、ふと意識が夜に吸い込まれそうになった時も、車窓に響く、鉄路のリズムが夜を越えて宙へと旅客を誘うのである。しばし夜の底に浮かぶプラットホームにたたずみ、そしてまた遠い街明りがしばたたくのみの夜を辷べって行くと、この窓の外はさまざまな神話のさまざまな現実のとある場所の上空であり、なおかつ、今自分とこの列車は、いかなる瞬間、空間にもとどまってはいないのだということを実感できるのだ。今回の「オートバイ少女」の鈴木翁二の世界にもそのような曲折を経た滑翔願望がしばしば見られる。

新幹線や飛行機や夜行列車に乗ってお酒を口にはしない。滑走滑翔そのものからすでにドラッグをやっているような、いやナチュラルなままに滑翔している実

感が得られるからだ。

☆　☆　☆

そして、やはり人間というものに与えられてしまった重力というものの意味を考えてしまうのだ。人類や僕らは今後さらに重力を欲しているのか。あるいは、少しでもそれから解き放たれたいとおもっているのか。

もちろん、双方である。快楽原則から言っても、重力あっての反重力だ。だから簡単に言えば重力と反重力の場を行き交う際のセンシュアリティーの問題ではないだろうか。恋愛といわず、宇宙物理学といわず、政治経済原則といわず、おそらくは、その滑翔と滑落の重力と無重力の翻るはざまにどのような歓喜を得ようとしているのか、そして得てきているのか、という問題ではないのか。

滑走滑空といったって、歩いたり転んだりしているのだ。何も星の王子さまになって空に遊んでいるわけではない。存在と不在の行きがかりの問題なのだ。ムービーカメラで言えば、シャッターの開いてる瞬間、こちらが瞼を閉じていれば、あるいはシャッターを閉じている瞬間のみこちらが瞼を開けていれば、相互は相互に存在しているはずがない。走っているスピードがちょっと違うだけで、横見をしたい角度がちょっと違うだけで、もう相互の見ているものが全然違うものになる。何を言いたいのかって？滑空滑走していることが好きなんだ、ということを言いたいだけ。夜眠れないから夜行列車が好きなんだということを言いたいだけ。結論を言えば、だからって、逃げてるわけでもないし逃げようとしてるんでもないってことを言いたいだけなんだけれど。

☆　☆　☆

連載第二回が2・3月合併号だから、あっという間に3ヶ月が経ってしまい前回お休みになってしまったので、映画「オートバイ少女」はどうなってしまったのだろうと心配してくれている人もいるかもしれない。

何事も成り行きというものがあって、映画は場所や時間というものを選ばない。つまり、いつ何処へでも押し流されていってしまう。学校には教室と時間割があるが、恋愛などの行きつく数時間後の場所や時間を想定しづらいようにだ。出来のいい映画とは、その予約しづらい恋愛沙汰に、適度な場所と適度な時間割を設定することのできたもののことを言うのだろう。

今回の「オートバイ少女」は正しい意味のアマチュア映画になればいいとおもっている。それでも判っていないことがある。アマチュアとプロの違いって何なのだろうかという点だ。

お金が動きスタッフが動き俳優が動き、フィルムが廻る。冷静に考えれば、そのセレモニー自体がすでにアマチュアのたしなみの範疇を越えている。では、アマチュア（という言葉も適切ではないのだが）の映画ってありえないのか。正当なる創作動機を有した非プロフェッショナルな映画は存在しえないのか、ということになる。これは決して、既存の企業映画に対するアンチテーゼとして言いたいのではない。既存の商業映画によってこそ僕らは映画という夢のメタファーを喚起され続けてきたのだから、そんな礼儀知らずなことを言うつもりはない。

むしろ、こちら非プロフェッショナルなサイドの映画創作に対する必然性の有無の問題といえるのだ。

例えば素朴なところで、そうでなくとも、昨今のアマチュア監督の氾濫をよしとしない風潮さえある。この僕すらそのアマチュア監督の一人と目されてしかるべきだろう。御為（おため）ごかしに言えば、本当にいい映画を撮ってもらいたい既存のいい監督がたくさんいるほどだ。

それでもこの非プロフェッショナルのあがたが監督をするのだとなれば、その創作行為の必然性に対してそれなりの関門が待ちうけていて当然だろう。

ロケハンやオーディションといった具体的作業を経てすでに何ヶ月かが過ぎた。今一番時間がかかっているのが脚本だ。脚本とはいかに非プロフェッショナルな集団の作業とはいえ、あてのない恋愛沙汰の未来を幸福に導くための場所と時間の記された貴重な地図であるからおろそかにはできない。まずはこの地図ができあがるまで、じっくりとやろうということだ。

プロだとか、非プロだとかいうことを抜きにしても、結局は、その作品の存在に何らかの必然性のあったものしか、映画として誕生しえないということはまぎれもない真実なのだ。

まあ、でも、あまり硬く考えるのは止そう。ジム・モリスンに言わせると

「映画は人工受精した動かない絵の集合である。」

だとさ。

この「オートバイ少女」とて、世に生まれ出ずるのかいなか。その鼓動に耳を傾けているのは、今はまだ、この映画に顔を寄せあっているあなたや僕らだけなのである。

☆　☆　☆

ところで先日出た「ジム・モリスン詩集」には映画に関する暗示に満ちたフレーズがかなりあって面白かった。

「映画はふたつの道を通って発達して来た。ひとつはスペクタクルとしてである。ファンタズマゴリアと同じくその目指すところは、感覚的世界を総体的に模造することである。

もうひとつは覗き見としてであり、こちらの領域は実生活に対する放逸で色情的な観察である。それは鍵穴、または色彩も音も威厳も必要としない痴人の窓にも似ている。」

（篠原一郎訳　新宿書房刊）

✖原作小説

君のコンドー

（第2回）

久住昌久

　下心はあった。
　ADの女のコがオレと同じホテルに泊まるという電話がかかってきたのだ。
　今度の番組の脚本のための築地の河岸の取材である。朝が早いので制作が新橋のホテルをとった。まァホテルといったって、ビジネスホテルに毛のはえたようなものなのだが。
　でもその電話はアシスタントディレクターのその女のコ、柴田さんといったけど、そのコ本人からかかってきた。若い声だった。
「当日は、わたくしシバタがフロントでお待ちしておりますので」
　張りのある、カワイイ声だった。
　局とのあらかたの打合せはすでに済んでいる。柴田さんは、単にボクを起こして、河岸での案内役をするだけである。
「あの、明日は、柴田さん、おひとりですか」
「はい、そうです。よろしくお願いします」
　声が弾んでいる。声の色が笑っている。
　前の打合せの時に、ボクが酔った勢いでバカ話を連発したので、ボクに面白いヒト、という印象があるのかもしれない。
　あの時、テーブルの一番遠い席でコロコロ笑っていた色白のコ、が柴田さんのハズだ。
　机の引き出しから、まだホルダーに入れてない名刺を出してめくると「柴田和子」の名前が出てきた。
「和子っていうのか」
　似合わないような気がする。でもあのストレートな髪の、真面目そうな感じ、少し動作がぎこちないような、あのへんが「カズコ」って感じもする。いや、カタ仮名で書くなら「カヅコ」かな、むしろ。
　なんて、オレもいい気なもんである。あの晩彼女とはほとんど喋ってないのだ。コロコロ笑ってただけなのだ。ズもヅもない。
　だけど当日はオレの別の打合せの都合もあって、夜9時に待ち合わせである。
　9時という時間は微妙だ。
　食事は済んでいるが寝るにはまだ早い。いくら明日朝が4時半起きだとしても。だいいち眠れない。
　そうだ。眠れないという理由で一杯飲もうではないか。あのホテルの近くなら、ちょっと洒落たバーも知っている。柴田さんなんか、たぶんまだ行った事ないような店だ。気取ってなくて、でも完全にオトナの雰囲気。わざとらしくない暗さもよかったな。
　よし、あそこに行こう。2人で。
　なんて、オレはどんどんどんどん考えていた。いけないいけない。この業界はスケベ男の巣窟である。自分はそうじゃない。違う。
　マンガの原作者から、ドラマも書ける放送作家になった、新鋭のモノ書きである。別の名前でエッセイも書いている。モノ書き、にこだわってるのは、テレビの業界人になりたくないからだ。あくまで外部でいたいのだ。
　ところがちょっとADの女のコが、同じホテルの別の部屋（当然そうだろう）に泊まるというぐらいで、もう何か、そのコと、いい事があるんじゃないかとか考えめぐらせている。イヤラシイ。ギラついている。そういう気持ちは必ず外見に出るものだ。気をしっかり持たねば。
　こんな、駆け出しの、ちょっと評判になってるとこでクダラナイ失敗はバカバカしい。
　とはいえ、あのバーで飲むぐらいならいいだろう。小1時間、か小2時間、二人で何かお喋りして、帰ってオヤスミって別れてパッと寝りゃ、それでいいじゃないか。
　何言ってんだ、オレは。でも一応コンドームぐらい持っていくべきだろう。
　9時、5分遅れてホテルに着いた。タクシーから降りると、思っていたよりキチンとしたホテルだ。なんだ。いいじゃないか。違うホテルと勘違いしていた。こりゃいい。
　正面の自動ドアが開く前に、その奥にいた彼女はガラス越しにオレを見つけ、笑顔一杯のお辞儀をしながら小走りにこちらにやって来た。GパンとフードのついたトレーナーというイデタチがいかにもADだ。
「お早うございまーす！」
　こんな夜に。業界だなァ。柴田さんはそんな風に言わなくていいよ。
　近くで見る彼女は想像の中でどんどんカワイクなっていた外見とは、ちょっと違っていた。笑うと、ちょっと歯ぐきが出る感じで、思ったより肌がキタナイというか、スポーツマン的な、肌の皮の厚そうな頬をしている。
　でもカワイイ、十分カワイイ。なぜかオレは自分に言いきかせたりしている。
「お忙がしいところ、すいません」
　フロントでサインをすると彼女が、
「じゃ、鍵はこちらです、953。私は721です。私、これからちょっと別の打ち合せがあるんで、一旦外へ出ますが、12時までには戻りますんで、先にお休み下さい、明日は早いですから」
　と、一気に喋った。
「あ、そうね」
　なんだ、そうなの？だろ。
「フフ、私が、責任を持ってモーニング・コールしますんで、今夜はグッスリ眠って下さい」

「あ、うん。でもまだ寝るには早いなァ、ハハハ」
　オレは絶望的な気分でわざとらしく腕時計を見た。そういうアクションしかできなかった。腕が重たいほどだ。針なんか見ちゃいない。
「お疲れでしたら、マッサージでも呼んで、ルームサービスでお酒でも飲んで下さい。みんな局持ちですから」
「飲み過ぎて二日酔いになったりして」
　精一杯のダサイ冗談。
「だめですよォ。じゃ、よろしくお願いしまーす。すいません。失礼しまーす」
「どーもォーす」
　何言ってんだオレは。右手の4本の指をペコペコ曲げてバイバイしちゃって。情けなや。
「なんだよまったく」
　拍子抜けした。ドッと力が抜けた。タクシーの中で、オレったら初めてのデートみたいに緊張してたような気がする。
　エレベーターが上がると自分の体重が重く感じる。それと比例して気分までドッと疲れた。9階で「チーン」とベルの音がしてドアが開いた時は、本当に、肩が凝っていた。
「よーし、マッサージ呼んだろうじゃないか」
　オレは953の鍵を開けながら、本当に小声でそうつぶやいていた。
　実際このところ仕事が重なりに重なって、疲れは溜っているのだ。首も腰も張っている。
　さっさと浴衣に着換えて、フロントへ電話して、マッサージを頼んだ。そしたら今予約が一杯で、10時半という。ガックリきたが、その時間に予約した。
　1時間半もある。しかし今から外に出るのも、バカバカしい。このホテルの中のバーで一杯やるか。しかし浴衣に着換えてしまった。
　バカだった。電話してから着換えるべきだった。今さらどうしようもない事にぐずぐず迷う。もういい、とりあえず風呂にでも入るか。
　バスルームを見たら意外に浴槽が大きい。わりと深くて、でも西洋式に寝そべられる長さもあり、オレ好みだ。浴用剤でも持って来ればよかった。
　久しぶりに、たっぷり長湯して、オレはややのぼせて素っ裸でバスルームから出て来た。あのADのコの顔が浮かぶが、もはやどうでもいい。テレビをつけて、浴衣をはおり冷蔵庫からビールを出した。
　別の番組の脚本のワープロ原稿をちょっとながめる。ずいぶん手直しが必要みたいでウンザリして、そいつをベッドサイドに放り投げて、ビールをゴクゴク飲んだ。
　そしたら急に酔いが回ったか疲れが出たか、ベッドの上でウトウトと眠ってしまった。
「コンコンコン」
　ドアを叩く音で眼を覚ました。マッサージが来たらしい。そんな時間か。汗が冷えて、寒いくらいだ。風邪をひくところだった。
「はい、どォもォ」
　入ってきたマッサージの人は、50がらみの太ったオバサンだった。なんだか厚化粧で、気色悪いババアだな、と思ったが、もはやなんでもいい。このニッチもサッチもいかない夜を揉みほぐしてくれ。
　オレはベッドにうつぶせになった。オバサンは、ベッドの横にのぼってきて、
「いやー、今日は忙がしかったァ、アンタで最後よ。もー大変」
とかなんとか文句を言いながらやや乱暴にオレの背中を押した。痛い。オレはババァの言葉に、眼を閉じて「アー」とか「ソー」とか答えていた。
「アンタ、何やってんの。テレビ関係？」
　さっき放り投げた脚本の表紙の局のマークを見たらしい。「アー」俺は答えた。
「ふーん。大変だねぇ。じゃ芸能人なんかと会ったりするんだろ？」
　慣れなれしいなァ、と思ったがオレは「まー」とか答えていた。マッサージそのものは痛いけど気持ちはよかった。
「アイドルとか、カワイコちゃんとか、あれはでもみんなスケベなんだろ？本当は」
「知らねー」
「とぼけてこのー、ハハハ」
　なぜか品の悪い笑いをしてババァはオレの尻をペシリと叩いた。
「あお向けになって」
　なんだかいやだった。ババァはモモのあたりを揉みながら、自分はタモリやタケシは嫌いだとかなんだとかどうでもいい事をべしゃくしゃ喋っていた。いやな予感がした。
　突然オバサンは手を止め、
「…チン揉み、する？」
と言った。来ターッと思った。
「ナニソレ」
　と言いながら、オレは眼を閉じたまま眉をひそめていた。瞼の中が絶望的暗黒になった。
「とぼけてぇこのォ。チン揉みったらそのまんまよォ」
「えー、いいよォ」
「五千円でいいよ」
「そんな事やってんの？」
「内緒だよ、内緒」
「いいよ。間に合ってるよ」
「またまたァ。立派なもの持ってるくせに」
　オバサンの指がパンツに触れたので、オレは反射的に体をくの字にして横を向いた。
「いいよォ。ごめん、なんだか眠くなってきちゃったからさ、いいよ、もう。ありがとうホント。あーすっきりした」
　その時見たババァの顔、その何事も無かったような「あらそう？」という、ズ太さだけが顔面のド真ん中に居座ったような、感情の見えない表情。ちょっと怒ったのはオレの方だがその顔に圧倒されてしまった。なにか、凄いと思った。
　そそくさと部屋を出ていきながら、オバサンは、なぜかその凄い顔でオレの、たぶん情けない顔を見て、
「あんた、いい人だね」
と言った。どこが。何があんたなんかにわかるんだ。と思ったが、オレは恥かしいような悔しいような気分がぬぐえなかった。あの時、ババァの太い指がオレのパンツに触れた時、オレのそこは半分大きくなっていたのだ。オレを裏切って。畜生め。
　ババァの「あんた、いい人だね」という言葉が、明かりを消したベッドの中までついて来て、オレは情けなくていつまでも眠れなかった。

ボケ老人極楽漫遊記

松沢呉一

vol.26

一月三十日(土)

井上ひさし、筑紫哲也、本多勝一らが責任編集の週刊誌「金曜日」の旗揚げ集会に行くが、満員で入れず。入れない人がスタッフに食ってかかっているのを後目に「満員になって、めでたしめでたし」と、浅草木馬座に「キテレツオペラ」を観に行く。これは亡き篠田昌已が音楽を担当したもので、追悼の意味もあってか、芝居も演奏も力が籠もっている。

夜、RE・MIXなどに書いているライターの桜井通開氏に電話。PAPERSの原稿がなかなか集まらず、季刊ペースさえも危うくなってしまったので、溜まりに溜まった未発表原稿を、桜井氏のやっているミニコミSHORT CUTでも放出させてもらうことにする。

一月三十一日(日)

サエキけんぞう、川勝正幸両氏主催の新年会。なかなかの盛況。占い師の朱鷺ちゃんが突然私を呼び、手を握り締めて「苦しい時期を越えてよかったわね。これからは楽になるわよ」と言う。昨年の秋から精神状態がよくなく、執筆業を辞めたいと真剣に考えていたのだが、2、3日前から、ようやく最悪のところを抜けたとの実感があったところなのだ。

朱鷺ちゃんはテンションを上げ、「どんどん当てるから、何でも聞いてッ」と呼びかけ、皆の夫婦生活、母親との関係、妹の病気などをズバズバ当てて騒然となる。「引越しなさい」「会社は潰れる」「夫婦関係はおしまい」などと言われ、これから皆さん忙しくなりそう。川勝さんは「アフリカに行け」と言われ、あまりのことに鼻血を出す（アフリカは唐突な場所でなく、川勝さんが昨年行こうとして果たせなかった場所なのである）。

二月一日(月)

駅でふと足元を見たら靴が左右違っており、顔を赤らめて家に走り帰る。色は違うものの、形が似ていたからまだよかった。これが下駄と長靴だったら目も当てられなかったろう。

二月九日(火)

札幌の某宗教団体でUFOや霊の写真を延々見せられて困り果てる。どれもハレーションや現像ムラ、ガラスの反射によるものなのだ。やたらと鏡や太陽に向けて撮っているから作為的な臭いもするが、そのように撮るとUFOや霊が写りやすいと信じているのかもしれない。教祖が考えることは凡人には理解できないものである。

それでもここを単純には批判する気にはなれない。オカルトっぽいものを求めて信者が集まっているのでなく、どちらかというと家族的つながりに魅かれているように見える。信者に話を聞くと、不幸な環境にあった人が今はホント幸せそうで、高い金を搾り取られているのでなく、信者獲得のノルマがあるのでもないから、他団体に入るよりはましとも思える。

本当は宗教なんて必要とせずに生きて行けばいいのだが、宗教を支えにしなければやっていけない人もいるってことだし、支えにしているわけではないが、朱鷺ちゃんの占いに一喜一憂する我々だって同じようなものだ。

夜、大通り公園の雪まつり見物。19年ぶりだ。別段感激はないが、札幌はねえちゃんがきれいだ。寿司、ウニ丼、カニナベもうまい。

二月十日(水)

札幌観光をほとんどしないまま、ラーメン食って青森へ。タクシーの運転手の勧めに従い、大鰐温泉に泊まる。すぐ近くにスキー場があり、4時間ほどスキー三昧。10年ぶりだがウデは衰えていない。地元の人達はたいしてうまくなく、青森では、それほどスキーをするわけではないらしい。私が育った北海道では、授業でスキーやスケートがあったし、暇があるとやっていたものだが、この地では小学校の時にスキー遠足に行くだけで、多くの人がそれっきり。スケートも八戸以外ではあまりやらないとのこと。冬は家の中でワラジを編む伝統が根強く残っているのだろうか。

二月十二日(金)

昨夜は浅虫温泉に泊る。日程に余裕があまりないのが惜しいが、極楽仕事である。宗教というのはホントにありがたい。

昨日と今日行った教団はいずれも居心地がよかった。今日のは信者が7万人いる宗教団体で、本部では350人が共同生活しており、うち150人は全寮制高校の生徒。滅多に家族に会えないが、生徒は「全然淋しくない」と語る。

帰ろうとしたら、二人の生徒が待ち伏せしていて、「本当のことを聞いて下さい。僕らここから出たいんです」と訴えてくる。「内部告発か」と緊張するが、喫茶店でたむろしたり、デートしたりといった普通の高校生がやっていることをやりたいとのことで、彼らの退屈しのぎに2時間ほど協力してあげる。

特別の場合を除いて、生徒は敷地の外には出られない（とはいえ広大な敷地である）。生徒はほぼ全員が信者で、3分の1ほどの生徒は自分の意志で毎朝水行をやるくらい熱心なのだが、3分の1は諦め、3分の1はスキあらば外に出たいと狙っている。もちろん彼ら

二人は3番目のグループだ。
昨年までは上級生による暴力があったが、そういった生徒は退学となり、今は平穏無事な日々で、テレビや電話もあり、豊かな自然に囲まれて羨ましい生活にも見える。彼らとダべっていても、職員や先生が注意するわけでなく、鷹場で長閑な雰囲気だ。しかし外に出ちゃいけないのは確かに辛かろう。
彼らは2年生なので「あと1年我慢しろ」と励ましておく。いいヤツらであった。

二月十三日(土)

せっかくシティロードが復活したというのに、ここにきて問題が噴出しており、私の担当編集者も辞めるようだ。復活してから始まった連載は次号で早くも終了、これでは一時のつなぎに使われたようなものだ。「支払う」と言っていた未払金についても、支払われたのは10%。これですべてのつもりか、今後、少しずつ払うのかについての説明はない。新しい出版元である西アドへの不信がつのる。
夜中、塚本晋也作品一挙公開のオールナイト・イベントで、トークの司会をする。出演は塚本監督と田口トモロヲ、内田春菊、映画評論家の塩田時敏。塩田さん、へベレケで何を言っているのかわからない。地方からわざわざ来ている監督のファンもいる。監督でおっかけがいるのは珍しい。

二月十五日(月)

一昨日から下痢。朝起きたら、ケツがシャビシャビだ。下痢の時にチビることはよくあるが、寝ているうちにチビり、しかも気付かないことは初めてではないか。靴を間違えるしチビるしで、朱鷺ちゃんの言う「これからどんどん楽になる」というのは、ボケてワケがわからなくなるってことか。

二月十六日(火)

ラジオのゲストにダブマスターX、エマーソン北村、ナツメグの社長のザビを呼ぶ。ザビはマスターテープをよく紛失するらしいし、自分のところのCDはあまり持ってこないで、サタデーナイトフィーバーのサントラや大貫妙子などをオンエアしようとする。何を考えているのか、この男は。ザビはフランシスコ・ザビエルの末裔なのだが、するってえと布教に来て日本人とセックスしたということか。この先祖にこの子孫あり。

二月十七日(水)

PCM音楽放送というのがある。衛星を使ったラジオで、6社18チャンネルあり、そのうちのひとつで私も番組をやっているのだが、スタッフ以外に聴いている人に会ったことがなく、一枚として葉書が来たことがないので、契約者が極端に少ないと薄々気付いていてはいた。
これは内密の話なので口外しないでいただきたいが、昨日、あるチャンネルの契約者数が72人であると聞く。今日、別の人から聞いたところによると、最も多いチャンネルでも2百人程度らしい。契約者が常時聞いているわけではないので、時間によっては一桁の聴取者のこともあるだろう。小学校の校内放送の方が聴取者が多い。完全にやる気を失くす。

二月二十一日(日)

朝早くから取材の下見で宗教団体見物。夜、六本木キャラメルでストリッパー高樹麗のイベント。元AV男優の南条千秋氏も出演していて、終わった後、AVの裏話を聞く。宗教とストリップとAV。バランスの取れた一日。

二月二十三日(火)

久々に小便の師匠、中尾良一先生に会う。
以前から中尾先生は飲尿でエイズが治る可能性があると主張していたのだが、遂にフランスでエイズ患者が治ったとの報告があったのだそうだ。日本でも、キャリアの人が小便を飲み始めて効果があったとの手紙を中尾先生に送ってきていて、手紙を見せてもらったら確かにそう書いてある。これで私も心配なくセックス研究に没頭できるってわけだ。
中尾先生は今度の総選挙に出て、NHKの電波で現在の医療の批判をやりたいとのこと。全国のジジババが投票すると、意外にも当選して面白いことになるかもしれない。

二月二十五日(木)

なんだかよくわからないまま、先週からSPA!の政治特集の仕事をやっている。政治家の言う改革なんて信用していないが、どうも皆さん本気のようで、よっぽど我々有権者の方が冷めているんじゃないか。今日は若手政治家の座談会の司会をやったのだが、帰り際、「コンビニで弁当を買わなくちゃ」「僕は一週間前に冷凍した握り飯がある」などと情けないことを言っていて笑える。
座談会のために、ニューオータニの8万5千円の部屋を借りていたのだが、朝まで使えるというので、私は一人で居残る。長い人生、8万5千円の部屋でセックスする機会はあろうが、オナニーすることはまずないと、別段したくなかったのに無理矢理8万5千円のオナニーをする。せっかくだからもう一回しようとも思うが、一発あたり4万2千5百円に下落してしまうので打ち止めにする。

讀者サロン

今月の有難ひ御言葉
アンケート葉書から

蛭子能収特集、面白くていっきに読んだ。スゴイ。父がガロをめくって、「最近の子供はこんなHな本読むのか」と言った。（あと3ヶ月で20才なのに子供もないもんだ）どうやら「地獄の金持」の女の人のオッパイを見て言ったらしい。そのあと母が「この子はもっとスゴイ本持ってるよ」と付け足したのは余計なお世話だった。　【いわき市・19才・男】

エビスさんは、言いたいこと言って、年収3千万ももうけてるんやから、葬式の時でも笑えちゃうのは、しょーがないんやろーなー。エビスさんの生き方って魅力的やわぁー。　【大津市・16才・女】

蛭子能収特集、人間とは何だろうと考えてしまった。　【高槻市・24才・男】

蛭子ｓａｎ特集、ずいぶん笑わせてもらった。…何にしても蛭子ｓａｎにはTVにしろ漫画にしろ、形はどうだっていいから、いつまでも我々を楽しませる為にサービスして欲しい。（ギャンブルされても我々、たのしめないけどなぁ……）　【群馬県・18才・女】

蛭子マンガはもっとブッとんだものを期待していたが…昔の単行本は絶版ですか？　【堺市・24才・男】

蛭子氏の奥さんの特集をやってください。　【八街市・22才・男】

つげ忠男さん良かったです。お兄さんよりすきだなぁ。その後の長井さんのインタビューを読んでいて、長井さんて生き字引的存在なのかなぁと思いました。　【福知山市・20才・女】

もくじイラストの知久さん、「芽生え」ものすごくカワイかったです。　【桶川市・15才・女】

名作劇場、暗闇の中に光るリュウの目が忘れられない。あまりにもその光が強すぎて、眼をそむけてしまいそうだが、だがのぞきこまずにはいられない、そんな光だと思う。　【練馬区・22才・男】

お陰様で、高校に合格しました。入試の前日に勉強もせずにガロを読んでいたのが良かったんでしょうか（？）。合格祝いにつげ義春さんの単行本を買って貰う予定です。とても楽しみです。　【柏市・15才・女】

「リュウの帰る日」おもしろかったです。私はつげ忠男さんの作品の終り方がとても好きです。　【杉並区・19才・男】

将軍塔の謎、デンキブランは「一口天国」なのでは？映画見てないからわからないけど。　【四条畷市・17才・女】

田口トモロヲ氏にエロマンガをかいてほしい。　【栃木県・18才・男】

みんな漫画より読み物が面白いとか言うけどそんな事ないぞぉ。私は漫画の面白さを理由に今まで買ってきたんだぞ。（読み物ももちろん面白いけどさ）　【神戸市・13才・女】

望まれるべく出現する新人や、現役で活躍する漫画家が第一だと思うが、やはり白土三平は僕にとって別格だ。…インタビューなどという形をとらず、長井会長との対談として実現して欲しい。切に望む。　【町田市・25才・男】

私は根本氏のファンだけれど、氏がイベントなど他の仕事で忙しいことは分かるけれどマンガでもっとスゴイことをやってほしいと思います。　【大阪市・19才・女】

根本氏の漫画が無いのは、残念半分、ほっとしたの半分でした。根本氏の作品は読みたいけれど、先月の穴埋め的なものでは（あるネライがあるのかもしれないが）淋しいですから。だから、半々の気持ちでした。　【杉並区・20才・女】

ガロ情報掲示板
BUY SELL PEN-PAL LIVE MAGAZINE
QUESTION ANSWER STAGE SUGGESTION

売ります

■林静一「ph4.5 グッピーは死なない」
¥1800を¥1000で。
林静一「紅犯花」
¥2500を¥1500で。
つげ義春「夏の思いで」
¥1240を¥700で。
月刊ガロ復刻版「つげ義春特集」
¥3800を¥2000で。
「ガロ曼陀羅」
¥1800を¥800で。
すべて新品同様ですので安心して下さい。以上の価格＋送料でお願いします。
【〒571大阪府門真市幸福町20－13　新井久美】

■楳田ウメ読集「ミドリ」（付録ミドリプロマイド＋かわら版最新号）を62円切手5枚と交換しませう。貴方様の御住所と御氏名を明記し左記迄。
【〒253神奈川県茅ケ崎市南湖2－13－6　小人座出版社　楳田ウメ】

■手塚治虫「ブラックジャック」愛蔵版、全12巻まとめて買って下さる方。手塚治虫「アドルフに告ぐ」愛蔵版も全巻まとめて買って下さる方に。価格は「ブラック…」が¥6000
「アドルフ…」が¥1500
ですが、応相談なのでまずは往復葉書で連絡を。
【〒957新潟県新発田市本町4－4－10　小山勝津美】

■リリカ創刊号から最終号まで、全29冊。（76年〜79年、サンリオから出ていた月刊誌）送料負担して下さる方、往復葉書に希望価格（但¥3000以上）を書いて送って下さい！
【〒581大阪府八尾市曙町4－54－7　伊勢良生】

■同人誌売ります
不思議研究サークル零（れい）では年4回発行している『零誌』を1冊400円で。（送料別）同人誌といってもアニパロやマンガではなく大人の知的遊戯とでも申しましょうか。色々な事を自分なりに考え発表していく、というもの

です。まずは62円切手同封でお問い合わせ下さい。
【〒175東京都板橋区高島平7−20−12四つ葉荘202 水城唯】

買います

■丸尾末広「夢のQ−SAKU」
鳩山郁子「月にひらく襟」
鴨沢祐仁「クシー君の発明」
ガロバックナンバー
90年1月号・9月号
91年5月号・6月号
以上を定価＋α＋送料で買います。
【〒571大阪府門真市幸福町20−13 新井久美】

■「海辺の叙景」を¥5000で「山野記」を¥3000で「えすとりあ創刊号」を¥3000で買います。
みんなつげ義春氏の作品ですが、最近氏の作品はあまり見掛けません。せめてガロ愛読者の間で情報を交換しましょう。
【〒306−04茨城県猿島郡境町大字塚崎708 長谷川浩一 37才】

情報

■結成十周年を迎え、大友さんにも多大な協力をいただきながら活動しております、『大友克洋クラブ』に入会を希望される方は、62円切手2枚をお送り下さい。折り返し、入会案内書をお送り致します。
【〒278千葉県野田市山崎1497−27（北野方） 大友克洋クラブ】

■青森「だびよん劇場」主宰・牧良介追悼「風の祭り」…牧良サンあなたは誰ですか
5月3日（月）夜6時開演
友川かずき 福士正一 五十嵐進
根本克行
5月4日（火）夜6時開演
三上寛 沢田としき 山上進
会場…福島県いわき市平三丁目・多田共夢ホール（JR常磐線平駅下車）
前売3千円 当日3500円 両日5千円 【問合先…0246（28）1086 新妻好生】

文通

■文通、友達、僕の撮っている映画に出てくれる人、創作人形を作っている人、手紙下さい。鈴木翁二さん、つげ義春さん、松本充代さんの漫画、タルコフスキーの映画、谷山浩子さんの世界等、こよなく愛しています。
【東京都・六本木指紋・30才・♂】

■馬鹿アート工房「スカラベ地蔵」という団体を主宰しております。活動はハイレッドセンターや秋山祐徳太子の真似事です。興味のある方、メンバーになりたい方連絡下さい。私、脱特殊歌謡祭で紫の布を被っていた者です。
【東京都・鶴岡法斎・?才・♂】

■どんな奴かは文通してからのお楽しみ。誰でもいいや、という人はお手紙下さい。年齢、性別問いません。私の視野を広げるのを手伝って下さい。どういう文通をしたいか書いて下さると助かります。
【長野県・受験番号Γ−7051・18才・♀】

■僕はただのモンキー・パンチさんのファンです。手紙の返事をせかさない女の人だったらだれでもいいです。のんびり、きらくに手紙を出してくださいな。
【大阪市・新谷杏介・16才・♂】

■表面は蛭子さんのように穏やか、しかし頭の中ではドロドロしたものが潜んでいるというような方、幻想文学が好きな方とお話したいです。私は丸尾末広、山田花子、江戸川乱歩、ヨーロッパ映画などが好きです。
【兵庫県・のんきな妹・19才・♀】

Q&A

●Q モンキー・パンチのじょうほうのせて、たのみます。じょうほうでいいから、のして下さい、一生たのみつづけます
【大阪市・16才・男】

A この人は、毎月このように書いて送って下さるのですが、そもそもモンキーパンチさんは『ガロ』出身の作家ではありませんし、『ガロ』に掲載された事もありません。ですから、当編集部にお問い合わせ頂いても困ってしまいます。情報は単行本を発行されている出版社さんなどへお問い合わせされるのが筋だとは思うのですが。お役にたてず申し訳ありません。

●Q 大越孝太郎氏の連載復活の日は来るのですか!?
【杉並区・20才・女】

A 大越孝太郎先生は現在小社から単行本を上梓すべく、奮闘中です。また、秋田書店『グランドチャンピオン』で連載もされてますので、そちらもどうぞ。

●4コマGaro、縮小はやめて下さい。（豊島区・?才・男）／頁数を増やして欲しい。（名古屋市・14才・男）…
…ごめんなさい。今月はスペースの都合でお休みでやんす。【白】

ATTENTION!

■『ガロ』情報掲示板の掲載〆切は毎月15日です。それを過ぎた場合は次号掲載となりますので、ライブや演劇の情報はご注意下さい。（翌月1日発売）
掲載した文通希望の方への回送有効期間は、発売から一ヵ月（消印有効）となります。それを過ぎて到着した回送希望のお手紙は転送できませんので、ご注意下さい。（例えば『先々月号の○○さんへ回送希望』というお手紙は回送出来ません）
㈱青林堂 月刊ガロ編集部・読者掲示板係

サロン掲示板利用の掟

●お便り
『ガロ』の感想や身辺雑記でも何でも書いてお送り下さい。必ず封書で、1200字以内でお願いします。文章の後には【住所、ペンネームか本名、年齢、性別】を明記下さい。ペンネーム使用の場合は【】の外に本名を必ず記載して下さい。
※お便りは当欄宛てで規定の字数ならば原文そのままで記載しますが、アンケート葉書に記載されたものは、こちらで要約・抜粋などさせていただきますので、ご注意下さい。また、作家へのファンレターは従来通り宛名を「青林堂気付 ○○先生」と書かれていれば開封せずに転送致します。

●売ります買います
「売ります」の場合は、その物の簡単な説明と希望価格（「応相談」でも可）の後に、【住所、本名、年齢、性別】の順に記載した用紙を入れて下さい。ペンネームは不可。電話番号は【】の中に記載すれば掲載して良いものと判断します。「買います」の場合も右記と同様です。掲載後の交渉は、本人同志で行っていただきます。

●情報
演劇、ライブ、同人誌、その他何でもお寄せ下さい。情報はなるべく簡潔にまとめた上、情報提供者の【住所、ペンネームか本名、年齢、性別】を明記下さい。

●Q&A
『ガロ』の事や作家の事、昔の作品の事等々、疑問があったら何でもお寄せ下さい。お答えできる範囲で誌上でお答えします。疑問の後に【住所、ペンネームか本名、年齢、性別】の順に記載して下さい。

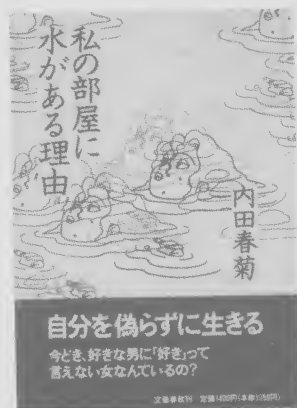
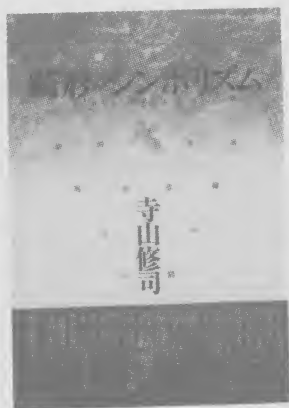
●文通
文通希望の方は、原稿用紙もしくは便箋に百字以内の自己PR（メッセージ）の後に、【住所、ペンネームか本名、年齢、性別】の順に記載して下さい。ペンネーム使用の場合は【】の外に本名を必ず記載して下さい。
また掲載された文通希望の方に応じる場合は、希望する相手への手紙は、封筒に入れて封をした上、宛名を書かずに当該料金分の切手を貼付し、裏に必ず自分の住所氏名を書いて下さい。それに、「○月号掲載の○○さん宛て転送希望」と書いた紙と一緒に、文通回送係までお送り下さい。

■情報掲示板に掲載をご希望の方は、以上の要領で、〒101東京都千代田区神田神保町1−62 ㈱青林堂 読者サロン・掲示板○○係までお送り下さい。【】の中に記載されたものは誌上に掲載してもかまわないものとします。その際、ペンネームを使われる場合でも本名と住所、電話番号を必ず別に明記下さい。書かれていない場合は掲載できません。尚、掲載した情報についての責任は負いかねますので、くれぐれもいたずらなどには利用しないで下さい。また、こちらの判断で掲載できない場合もありますので、あしからずご了承下さい。
ガロ編集部

★第一回漫画評論新人賞もぶじに終り、また引っ越しのほうもなんとか済ませた**呉智英**氏が双葉社より**「サルの正義」**（定価千二百円）をだされました。**"馬と鹿の次は猿だ"**この言葉にはとっても深い意味が込められているのであります。**暴論に正論あり**、読めば日ごろの胸のつかえがスッとれるほどの気持ちのよい正論が、端から端までビッシリと詰まっているのです。そして「もしかしたら自分も猿かもしれない」という**恐怖**がフツフツと胸に沸き上がってくるかもしれないコワイ本でもあります。今月お勧めの一冊！

◎**「夜行」第18号**のお知らせ。**映画「ゲンセンカン主人」**公開が待たれる**石井輝男監督とつげ義春**氏の対談、**天野天街インタビュー**などなど**盛り沢山**の企画の他に、漫画作品も**三橋乙揶**、**菅野修**、**伊藤重夫**、**南日れん**各氏が競作。さらにディープにさらにアンダーグラウンドに。北冬書房から定価二千円（**安い!!**）で発売中。

☆**「名美Ｒｅｔｕｒｎｓ」**
映画「死んでもいい」が大好評だった石井隆さんの傑作集が出ました。権藤晋氏選出の劇画作品に加えて「死んでもいい」の完全版シナリオ、更につげ義春氏との対談も入った**豪華版!!**詳細なビブリオグラフィ、フィルモグラフィーも付いてるのでファンは絶対買いです。装丁も美しい。ワイズ出版刊、定価二九〇〇円。

♥珠玉の短編集**「愛のせいかしら」**がめでたく発売となった**内田春菊**さんが、文藝春秋より**「私の部屋に水がある理由」**（定価千四百円）というエッセイ集を出されました。89年から92年のあいだに書かれた作品をまとめた総頁三七六という読みごたえのある一冊です。少し年月はたっても、ちっとも古さを感じさせないのは、やっぱり文章のうまさと感性の豊かさでありましょう。そういえば、こないだ打ち合わせでお会いしたとき、お子様に**母乳**を与えておられました。その表情はもうすっかり母親になっており、その姿には後光がさしておりました。

★**寺山修司著「畸形のシンボリズム」**（定価千八百円、白水社）未知なるもの、異質なものに不安を抱きつつも心惹かれてしまうのは何故か。没後10年、変わらず支持され続ける氏の長編評論。

♡**美人になりたい物語**（祥伝社刊・定価500円）**レディースコミック界の良心刀根夕子**さんが描く上質なOLコミック傑作集!!大人気令子さんシリーズを収録、貴方もこれを読んで**美人**になるべし!!

円国民的TVアニメシリーズ**「ちびまる子ちゃん①～⑤」**（ポニーキャニオン）がビデオになって登場します。原作者**さくらももこ**さんが自ら厳選した傑作集で、またあの名作がお茶の間で楽しめるわけですね。また各パッケージに収録作の名場面を盛り込んだ**豪華書下ろし画ジャケット**つきです！（定価二千八百円各巻50分・カラー・スタンダード）

©さくらももこ/さくらプロダクション・日本アニメーション1990

卍今月の特集で頑張ってくださった**丸尾末広**氏は、6年間住んでいた**陰獣の館**（ホント）をぬけだし、広い**マンション**に移られましたが、まだ引っ越したばかりなのでガランとしています。

そこに拾ってきたという**仏壇**が置いてあり、中には**リンゴ**が一個入っていて上にはデカイ**〝ウルトラセブン〟**の人形が乗っておりました……。「無防備都市」はこの後〈中編〉〈後編〉と続く予定です。乞御期待！

♥今月の惑星直列♥

一体『未来精子ブラジル』『ディープコリア』はいつまで待たせるんだっ!!と**カンッカン**にお怒りの諸兄は多いと思います。根本先生並びに編集部よりお詫び申し上げます。しかしっ、遊んでる訳ではない。根本敬＆幻の名盤解放同盟プロデュースのビデオ『**ひさご**』が←意味不明（ガロ脱特殊歌謡祭92）がいよいよ4月25日発売予定だ。さらに、根本敬＆マディ上原の特殊漫画ユニット「お岩」の**豪華オールカラー限定版『お岩』**も4月25日発売予定、こうなったら全部4月25日に集めてしまえ!!とゆー事で、やはり同盟プロデュースの幻の名盤解放CDの第5、6弾も、**勝新太郎のCD**もKKベストセラーズからの描き下ろし単行本も、そしていよいよ『**定本・DEEP KOREA**』まで**全部一遍に発売だ！**と豪語。これを『**根本敬の惑星直列**』と呼ぶ事にした。根本ファンは財布をしっかり引き締めて、**この日を待て！**

♥幻の名盤解放歌集、続々と登場!!今度は日本コロンビア編「**スナッキーで踊ろう**」と、ミノルフォン編「**太陽に抱かれたい**」だ。どちらもナイス!!な曲と自己中心陶酔温泉首までドップリィ～イ湯っだっナ～ン♬状態になることウケアイ（もはや全くイミ不明）各¥2、884円問い合わせはP・VINEレコード（☎03－3460・8618）までっ!!

●当ガロ誌上でもご紹介した、今最も**ディープ**（この用語は今変に流行ってしまっているが、もちろん根本敬＆同盟の名著『ディープ・コリア』での意味で）な同人誌、『**啓蒙天国通信**』の最新号のお知らせ。この第13号では、『**根本敬かく語りき**』と題して、根本氏にロングインタビューを試みている。当ガロ誌上でも奔放に活躍をして頂いているる根本氏ではあるが、やはりどうしてもガロが小さいながらも商業誌である以上、非常につまらぬ事とはいえ発言には制約が出て来る。しかし同人誌となると話は別である。この本は**完成度の高さ**は言わずもがなであるが、我々が見て、先のつまらぬ呪縛から放たれている点、ある種の**羨ましさ**さえ感じる。個人で発行を続けるという事はもちろん大変ではあるが。お勧めのこの本は、定価400円の定額小為替（無記名）に250円分の切手を添えて**〒143 東京都大田区南馬込3－38－13 第8木の実ハイツ107是垣隆大方『啓蒙天国通信』まで**お申し込み下さい。

●もう一つ、お勧めの同人誌のお知らせ。**新谷成唯氏**が中心となって発行している、『**ジュジエ**』。新谷成唯氏の他、ガロでもおなじみの**西岡兄妹、山川直**

人氏らも作品を発表しております。お求めになりたい方は、**〒151 東京都渋谷区本町6—1—5—201新谷成唯方『火星書房』まで。**まずはお葉書で刊行物や送料など、お問い合わせ下さい。

♥今月の久住昌之♥
編集部が校了間際で殺伐としていたある日の昼下がり、編集部に来た久住先生。**「今ひょっとして忙しい？」**と、まさに久住氏の原稿を谷田部周次専務が版下にしているところに向かってのたもうたのでありました。「いいなぁ、皆が目を吊り上げて仕事してる時に横でヘラヘラしてるのって」とニヤニヤする氏は、取材で神戸に行っていたそうで、その名も**「ふんどし」**という飲み屋があり、その店はカウンターの上にずらりと30個ぐらい提灯があり、その一個一個に「ふんどし」「ふんどし」と書いてあるという壮絶な店だそうです。さらに大阪には、JBの大ファンと言うよりキ○ガイの店主がやっているその名も**「セックスマシーン」という焼肉屋**（爆笑）もあるという。東京の焼肉屋**「ちょんまげ」**にも、ゼシ頑張ってもらいたいものです。

❢毎回おもしろいカラクリが仕込まれていて、その謎が解けると**百倍面白い**「倶楽部イレギュラーズ」の**高杉弾**さんは、**結核**の疑いがある、ということで入院されてしまいました。ということで残念ながら今月はお休みです。早く復帰されるよう、励ましのお便りだそう！

◎**アートワッズ情報**
渋谷のギャラリーアートワッズでは、今年も面白い企画がいっぱいです。
4月1〜13日 **中ザワヒデキ**「赤裸々な束子展」
5月20日〜6月1日 **しりあがり寿**
6月17〜29日 **根本敬・湯浅学**
7月1〜13日 **友沢ミミヨ・みぎわパン**
7月22日〜8月3日 **土橋とし子**
9月23日〜10月5日 **安斎肇**
☆日程未定分
8月 **蛭子能収・ジミー大西**
12月 **鴨沢祐仁**
詳しい情報はそのつどおしらせいたしますので、どうかお見逃しなく！

◎映画**『ゲンセンカン主人』**での熱演を早く見たい！そんなあなたのために**佐野史郎**さんのバンド**『タイムスリップ』**が休日ライブを行います。
5月4日（火）午後7時より
吉祥寺MANDALAII
☎0422—42—1579
前売り¥1500 当日¥2000
5月23日（日）
府中競馬場ライブ
（詳細はまたお知らせします）
皆、**必ず見に行くよろし。**それと、CDも出ているぞ！ファーストCD**『たんす』は絶賛発売中、セカンドCD『おくすり』も録音中、いずれもビクターより。CDについてのお問い合わせは03（3280）3641グラ・フルーツ**（西垣）まで。

😊ライブにCDに精力的な活動を続ける謎の結社！**「京浜兄弟社」**が若者の街**高円寺**（笑）にナイスな**古レコード屋を開店！その名もマニュアルオブエラーズ。**レコード・CD・自主制作テープの他古着や**中ザワヒデキ氏**の本やフロッピーマガジンまであるぞ。ご近所の方もそうでない方も一度は絶対**アソビ**にいくべし!!
（Tel 03—3317—4845）

◎**今月の転職野郎！**
またまたまた、原稿のしめきりが守れなかった**友沢ミミヨ**さんは電話口でしきりに「すいません」の連発！「明日までにあがらなかったら、もう**絶筆宣言**をして、スーパーのレジ係に**転職**していただくことになる」と脅すと、**「ひえーっ」**と叫んで電話を切り、必死に描き捲りなんとかギリギリセーフで間に合ったのでありました。わーはははははっ！

☆最近は部屋で息を殺しながらペンキ塗り親子の会話を聞いて楽しんでいる**三本義治氏**がまた紙しばいなどをやるそうです。創創言語プロデュース小沢組旗揚げイベント**「おとしまえ」**
日時・4月25日（日）
場所・新宿永谷ホール
1部・映画上映「少女椿」（1：00〜）
2部、3部・演劇、コント、バンド演奏（3：30〜、6：00〜）（1部のみ千円、2部、3部、通し千六百円〔ガロ持参二百円引き〕）
コント・関東労務層、花くまゆうさく&三本義治、ムービング他。バンド・我々、水中、くびちょんぱ青空はだか他。ゲスト有
問合せ、前売・3318—6826
創創言語社・3301—9159加富マデ。

😊**「アイディ&ティティ」**の単行本が大好評の**みうらじゅん**氏は、現在ボブ・ディランに関するビックなお仕事をなさっております。ご本人も気合をいれるため、**黒いフンドシ**をきりりと引き締め**馬にまたがって**頑張っておられます。さて、そのお仕事とは何か、ということはまだ秘密なのでいえませんが、出来次第またご紹介いたします。

■月刊『ガロ』定期購読のお知らせ
月刊**『ガロ』**は全国どこでもお近くの書店さんにてお買い上げ頂けます。書店さんの店頭に在庫がない場合でも、「毎月定期購読お願いします」とお申し込み頂ければ、発売日に入荷しますし、郵便事故もなく、送料もかかりませんのでお得です。
しかしご近所に書店さんが全くナイ！という場合は、小社から直接郵送サービスを致します。
【お申込み方法】
お近くの郵便局で郵便振替用紙に以下
※口座番号＝東京0—135477㈱青林堂
※申込人の住所氏名電話番号
※何年何月号より一年間（年間契約のみ）
を記入し、料金¥7000を送金下さい。なお勝手ながら切手、現金書留でのお申込みはご遠慮させて頂きます。
㈱青林堂 定期購読係

■投稿作家諸氏へ
月刊**『ガロ』**では、独創性ある新人作家の作品を随時、募集しております。直接持ち込みの場合は、前日までに電話でご予約下さい。遠方の方は、郵送（返却希望の場合は返信用封筒にご自分の住所氏名を書き、切手を貼付を同封して下さい。返却用封筒の無い作品は原則として返却出来ません）でも受け付けております。
また、原稿を拝見した時点で有望な作品は、お預かりし、月刊**『ガロ』**の入選作品として掲載の対象になります。即時掲載出来ない場合は、繰延になります。本誌掲載されなくても、編集部での一次選考に残った作品は、自動的に年間新人賞**『長井勝一賞』**の選考対象作品として、最大一年間お預かりする場合もあります。
投稿作品についての当落・掲載時期についてのお問い合わせは、毎月の投稿が非常に多いため、ご遠慮下さい。その他の投稿方法についてのご質問などはお気軽にお問い合わせ下さい。
㈱青林堂 月刊ガロ編集部

♥今月の長井勝一♥

今年の年男で、御年72になります長井会長。先日千葉の白浜に行った際、いつものように酒をしこたま呑み、新鮮な塩辛をおかずにご飯を食べるという、ナンともうらやましいリゾートエンドスーパー（意味不明）でしたが、ナンと塩辛の食べ過ぎで胃をこわしてしまいました。塩辛が悪くなっていたのか、量の食べ過ぎか、はたまたイカの祟りなのか、その答えは白浜のどこまでも青い海だけが知っているのでございます………。

■お詫び■

先月号上野昂志先生の連載『黄昏映画館』の文中に、行の入れ違いがありました。283頁中段の左端2行分が、23行目に入ります。上野先生並びに読者諸兄に謹んでお詫びして、訂正させて頂きます。

前回のガロ名作劇場でつげ忠男先生の『リュウの帰る日』にページの入れ違いがありました。237頁と238頁が入れ違いですので、正しくは236↓238↓237の順です。つげ忠男先生並びに読者諸兄に謹んでお詫び申し上げます。また、つげ忠男先生のガロ初掲載作品『丘の上でヴィンセント・ヴァン・ゴッホは』を「入選作品」としてご紹介しましたが、当方からの依頼原稿でしたので、訂正させて頂きます。こちらで確認しましたところ、初出が依頼原稿だった作家の方は、当時ではつげ忠男さんの他林静一さん、大山学さんなどがいらっしゃいます。作家の名誉にもかかわる事ですので、今後慎重に記載するよう注意致します。

ガロ編集部

ガンちゃんのアルバイト日誌

BACHCON

BACHCON

BACHCON

©大ちゃん

涙涙の?! 最終会だぁい!

㋹青林堂でバイトをはじめて8ヵ月めお酒を飲む機会が多くなって「酒って美味いなあ」と思うようになりました。もう飲まないと寝むれない今日この頃……。夜中の一時に「今、高円寺で飲んでるからおいでよ」と青林堂の方々にいわれて、他人の自転車を借りて30分かけて飲み屋に行った私は精神アル中者だなあと自分でも思うのですが、飲み屋に着いた私は、お酒もほどほどだなぁと悟るのでありました。（大場）

残飯整理

⛩ギックリ腰になってしまった。ものすごくイタイのよ。風呂で洗髪する時が特につらくって、右手で浴槽の縁につかまって体を支えていたら、突然右半身が痙攣してしまい、あまりの痛さにぎえ〜っとなって、泡がついたまま裸で部屋に寝転がり、しばらくピクピクしていました。通勤もつらいので、マジで杖を買おうとも思いましたが、ガキデカの栃ノ嵐みたいな犬をつかまえ、背中にのって足がわりにするのもいいな、と思っとります。そのときはサングラスもつけたほうがいいよな。

というわけで、丸尾地獄Ⅱを今年中にだす予定をたてています。限定ですので毎月ガロを買って気をつけていないと……（手塚）

♨〆切間際に体調を崩し休む。尾籠な話だが、とにかく何か喰わなければ死ぬと思い、近所の弁当屋でシャケ弁を買って来て掻っ込むが、30分後にはシャケ茶漬けになって体外に排出す。参った。編集部のみんなにも迷惑かけた。御免。来月は養命酒でも飲んで頑張る。許して。（周）

♬ワガ編集部には芸風の決まった人間が揃っていてナカナカ楽しい。手塚女史は「女王様」、谷田部専務は「ムーディ」、高市経理部長は「セクシーダイナマイト」、志村編集委員は「天然ボケ」、大場新入社員（商品部担当）は「ロック難聴」である。いいなぁ、みんな芸風が決まっていて……俺なんかやっぱり向いてないよなぁ…つまんねえよなあ全く。あ、この間某編集さんに「白取さんってお若いんですね、『ガロ』拝見してて35ぐらいのおじさんだと思ってました」と言われた。それじゃ何かい、あたしの芸風は「若年寄」ってわけ？そんな、ナウなヤングに向かって…やだよこの人ぁ。（白取）

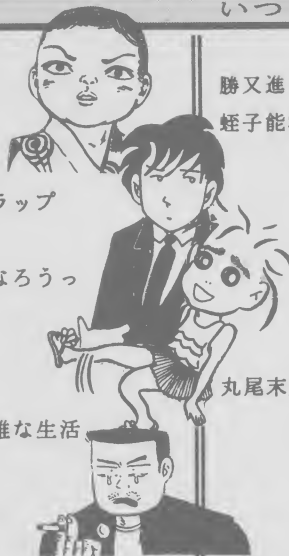
❀風邪をひいて、自宅で寝ながら10年後の自分を想像してガックリした。（高市）

◐今月は望月勝広さんが静岡からやって来てくれました。お話をしているうちに単行本の印税の話になって、青林堂の印税の金額はだいたい、これぐらいですよって言ったら非常にがっかりしていました。どうやら望月さんは単行本が出たら印税でウハウハだと思っていたらしいです。その話を聞いた大越さん、三本さんにもそんなにもらえるわけがないと言われてました。……単行本が出たらよろしくお願いします。（志村）

青林堂出版物一覧表

いつも手許に…Ａ５判並製

（注記あるもの以外￥880）

著者	書名	価格
花輪和一	*赤ヒ夜	
	猫谷	
川崎ゆきお	夢伝説	
高山和雅	パラノイア・トラップ	
東元	あなたに	
みぎわパン	ぱんこちゃんになろうっ	
	ぱんこちゃん	
山野一	*四丁目の夕日	
	*ヒヤパカ	
津山週三	伊丹哲次氏の優雅な生活	
森元暢之	反省しない犬	
杉作Ｊ太郎	卒業	
高信太郎	頭痛にコーシン	
マディ上原	決定判	￥830
桜沢エリカ	*チェリーにおまかせ	
	*レッツゴーラブリー	
とり・みき	*だまって俺について来い	
	*とりのいち	
泉昌之	豪快さんだっ！	
	*天国や地獄	
岡本蛍・刀根夕子	おもひでぽろぽろ ①	￥910
	おもひでぽろぽろ ②	￥910
根本敬	天然…甲篇	
	天然…乙篇	
	怪人無礼講ララバイ	
	豚小屋発犬小屋行き	￥1200
みうらじゅん	ボクとカエルと校庭で	
松本充代	青のマーブル	
	ダリア・ダリヤ	
石川次郎	みいんなじろうちゃん	￥875
近藤ようこ	*HOLIZON BLUE(ホライズン・ブルー)	
ＱＢＢ	栄三＝金星人説	
山田花子	嘆きの天使	
	花咲ける孤独	￥980
唐沢俊一／なをき	近未来馬鹿	
	ZORO-ZORO（ぞろぞろ）	
	脳天気教養図鑑	￥980
鳩山郁子	*月にひらく襟	
松井雪子	東京デビュー　上巻	
	東京デビュー　下巻	
とがしやすたか	青春劇場	
勝又進	ふらりんこん	
蛭子能収	地獄に堕ちた教師ども	
	*私は馬鹿になりたい	
	*私は何も考えない	
	*馬鹿バンザイ	
	*死んでも笑へ！	
	*日本の友人	
	*人生日記	
	薔薇色の怪物	
丸尾末広	*夢のＱ－ＳＡＫＵ	
	ＤＤＴ	
	*キンランドンス	
	ナショナル・キッド	
平口広美	*コスモスの丘	
杉浦日向子	*合葬（がっそう）	
	*ニッポニア・ニッポン	
	とんでもねぇ野郎	
谷岡ヤスジ	シデー世ですこと	
芳賀由香	すっかりお客さま	
内田春菊	シーラカンス・ロマンス Ⅰ	￥830
	シーラカンス・ロマンス Ⅱ	￥830
	*闇のまにまに	
	南くんの恋人	
	*しあわせのゆくえ	
	*凜（りん）が鳴る	
	愛のせいかしら	￥1200

*印あるものは品切れです。

変形判

しりあがり寿	コイソモレ先生	¥980
黒塚直子/藤幡正樹	宇宙人の落物	¥1030
永島慎二	風の吹く街	¥1860
	リリィのブルース	¥2060
つげ義春	復刻版「つげ義春特集号」	¥3800
水木しげる	復刻版「妖奇伝」	¥3800

ガロビデオ…吉野達哉監督

みうらじゅん・内田春菊他	テレグラム・ガロ	¥3200
根本敬	因果境界線	¥1800

本物に触れる…青林傑作シリーズ

（各¥1240）

永島慎二	花いちもんめ
	その場しのぎの犯罪（一）
	港野郎にきをつけろ！
上村一夫	狂人関係（全4巻）
宮谷一彦	青春相続人
真崎守	白い伝説
村野守美	泥沼
	媚薬行
	龍神
松本零二	親不知讃歌
青柳裕介	よさこい節
楠勝平	おせん
川本コオ	ブルーセックス
つりたくにこ	六の宮姫子の悲劇
白土三平	傀儡（くぐつ）がえし
滝田ゆう	ぬけられます
矢口高雄	チライ・アパッポ

永島慎二傑作集・全4巻各¥1550

四六判

ねこぢる	ねこぢるうどん	¥1000
イタガキノブオ	ペーパーシアター	¥1000
津野裕子	デリシャス	¥1010
吉田光彦	夢化色（ゆめげしき）	¥1030
ひさうちみちお	*托卵	¥1300
井口真吾	Ｚｃｈａｎ	¥1500
竹中直人編	『無能の人』のススメ	¥1500
みうらじゅん	アイデン&ティティ	¥1200

あなただけの…Ａ５判上製

永島慎二	一郎くんの長い旅	¥1010
丸尾末広	*少女椿	¥1010
杉浦日向子	*二つ枕	¥1010
	*東のエデン	¥1250
佐々木マキ	*ピクルス街異聞	¥1030
たむらしげる	フープ博士の月への旅	¥1030
	スモール・プラネット	¥1240
三橋乙揶	野辺は無く	¥1240
古川益三	邪尼曼陀羅	¥1240
鴨沢祐仁	*クシー君の発明	¥1450
鈴木翁二	透明通信	¥1500
安西水丸	青の時代	¥1550
赤瀬川原平	円盤伝説	¥1550
林静一	PH4.5グッピーは死なない	¥1800
日野日出志	地獄変	¥1650

株式会社青林堂
〒110 東京都千代田区神田神保町1－62
TEL03(3291)9556/2495 FAX03(3292)7368

平成ロイヤル
能天気カルチャーを
根底から覆した
迫力のクアトロLIVE!!
あの日、クアトロで
一体何がおこったのか!?

みんな買ってね♡ とってもおもしろいヨ!!

Director: 吉野遅哉氏

根本敬プレゼンツ

ガロ 脱特殊歌謡祭（仮題）

青林堂
ガロビデオ
定価3600円（税込み）

ガロビデオ第3弾
4月発売!!

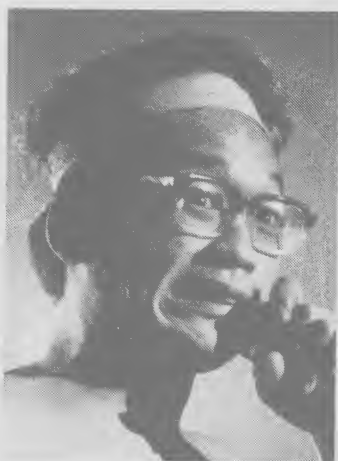
予

☆ガロビデオ第４弾決定☆

KBBフィーチャリング

つめ隊

障害者はおまえだ！

史上最強の身障者パンク
天下無双のハンディキャップ男
ナミガイの絶叫を聞け！

天願大介監督

先におこなわれたクラブクアトロ
『脱特殊歌謡祭』で超満員の
観客に衝撃を与えた、あの、
〈つめ隊〉がついにビデオ化！
狂乱。失神。動哭。昇天。
アア、日本にもパンクが存在した。
名曲「無敵のハンディキャップ」
「障害者はオマエだ」他
渾身の力を込めて
障害者魂を歌い、叫ぶ!!

5月発売予定

青林堂　ガロビデオ

青林堂

テレグラムガロ

クアトロを騒乱の渦に巻き込んだ伝説のライブ！「大島渚」はみうらじゅんがナオミと化して、まるで多重人格だが自己同一性を説く熱唱。これはハマるぞ内田春菊歌姫様のヴォイス性感マッサー。久住昌之「モダンヒップ」が毛穴ゆるます気持ち良さと、ガロ執筆陣豪華多数による濃厚トークに加え、蛭子能収のヨイトマケの唄を収録。
定価3200円（税込み）。

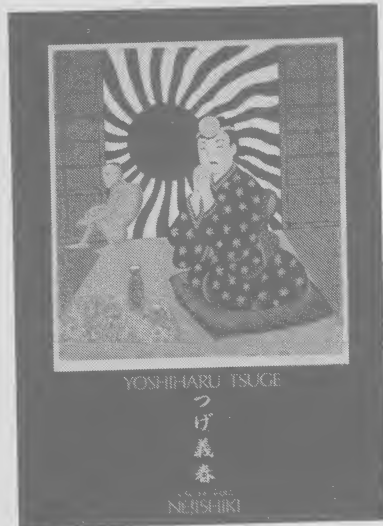
因果境界線

特殊漫画大統領、根本敬監修作品。丸々根本世界。内容、川西杏歌謡強烈映像。尹氏猥談抱腹絶倒。降霊山田花子霊。完全収録「男女物語」他盛沢山。麻薬的映像脳内浸透。
定価千八百円地獄税込。天国的安価。
映像現場監督・吉野達哉。

絶賛発売中

書店にて御注文下さい。

好評版画シリーズ

つげ義春版画

ねじ式

シルクスクリーンポスター	（22版 22色）
限　　定	300部
画面サイズ	605×550ミリ
紙サイズ	1030×728ミリ
紙　　質	ＢＦＫリーブ
価　　格	¥38,000
	（消費税別¥1,140）

夢の散歩

リトグラフ	（35色）
画面サイズ	410×300ミリ
紙サイズ	520×400ミリ
紙質	ベラン・アルシェ
価格	¥58,000
	（消費税別¥1,740）

根本敬特殊版画

根本敬特殊版画「テニスの稽古」（額装）

リトグラフ	
限　　定	100部
画面サイズ	313×258ミリ
紙サイズ	390×331ミリ
価　　格	¥23,000
	（消費税別¥690）

*根本敬オリジナルエロ写真

*ヴィデオ「因果境界線をカスピ海に捨てないで」

が付きます

鈴木翁二版画

鈴木翁二版画

リトグラフ	（手彩色）
限　　定	30部
画面サイズ	310×220ミリ
紙サイズ	380×280ミリ
価　　格	¥36,000
	（消費税別¥1,080）

鈴木翁二作詞作曲によるカセットテープ「ひとさらいの唄」が付きます。

お申し込みは　〒一五一 渋谷区初台一ー四七ー一小田急西新宿ビル四階
（株）ツァイト出版部　TEL〇三ー三二九九ー〇四五九
FAX〇三ー三二九九ー〇四六〇

SHINGO IGUCHI SILKSCREEN

井口真吾版画

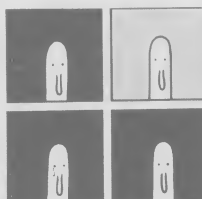
シルクスクリーン　限定各40部（No.10・11限定15部，No.12限定100部）

No.1　おしゃべりZちゃん
画面サイズ　260×260ミリ
紙 サ イ ズ　369×362ミリ

No.2　私の欲しいもの
画面サイズ　260×260ミリ
紙 サ イ ズ　370×360ミリ

No.3　クリスマスの奇蹟
画面サイズ　261×259ミリ
紙 サ イ ズ　370×363ミリ

No.4　レインボウ ハウス
画面サイズ　260×278ミリ
紙 サ イ ズ　369×362ミリ

No.5　歌をうたってよ古川さん
画面サイズ　260×260ミリ
紙 サ イ ズ　365×361ミリ

No.6　カトウの涙
画面サイズ　262×266ミリ
紙 サ イ ズ　369×363ミリ

No.7　カトウ
画面サイズ　260×260ミリ
紙 サ イ ズ　370×362ミリ

No.8　Z CHAN
画面サイズ　296×193ミリ
紙 サ イ ズ　369×257ミリ

No.9　ローズ キャンディーをあげる
画面サイズ　296×193ミリ
紙 サ イ ズ　369×257ミリ

No.10　ローズ ローズ(あなたが好き)
画面サイズ　973×697ミリ
紙 サ イ ズ　1058×753ミリ

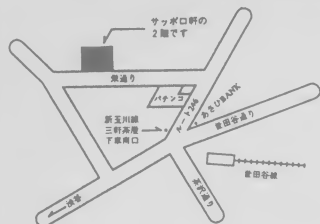
No.11　ローズ…(愛してる)
画面サイズ　973×697ミリ
紙 サ イ ズ　1058×753ミリ

ROSE ••••••

No.12　ステラ ローズ(ローズの願い)
画面サイズ　83×83ミリ
紙 サ イ ズ　182×255ミリ

No.13　天国への散歩
画面サイズ　445×445ミリ
紙 サ イ ズ　600×600ミリ

価格	No.1～9各	￥12,000	（消費税別￥360）
	No.10・11	￥60,000	（消費税別￥1,800）
	No.12	￥5,000	（消費税別￥150）
	No.13	￥30,000	（消費税別￥900）

（価格は全てシート価格です。フレームはつきませんので御了承下さい）

3軒茶屋の2階のマンガ屋

リサイクル・コミック・ショップ

●通販リスト（絶版本,雑誌,付録等）/●同人誌通販リスト（古本同人誌）

目録ご希望の方はハガキに〒・住所・氏名・TEL・ご希望のリスト名を記入し下記まで御請求下さい（送料・会費等不要）

年中無休
営業時間12:00〜20:00

〒154 東京都世田谷区三軒茶屋1-34-13［3軒茶屋の2階のマンガ屋］TEL03-3410-5099

「ねじ式」夜話　権藤 晋著

—つげ義春とその周辺—

つげ義春との25年にわたる交流のなかから、「ねじ式」「紅い花」「ほんやら洞のべんさん」「ゲンセンカン主人」「山淑魚」「峠の犬」「海辺の叙景」等々の名作がどのような背景のもとで生み出されたかを興味深くつづったつげファン必読のエッセイ集!!
つげ義春との語り下し対談「旅談義」を収録。

●四六判上製・定価2500円・装幀＝伊藤重夫
限定1500部／発売中!!
発売元＝北冬書房

キッチュ論	石子順造著作集I	2987円
イメージ論	石子順造著作集II	3605円
コミック論	石子順造著作集III	3296円
至福の島から	斎藤　種魚画帖	1546円
さみしげな女たち	石井　隆画集	3914円

古本高価買入

喇嘛舎（ラマ）
世田谷区太子堂4－25－13
TEL (3413) 1407

第25期1993年4月開講!!

美學校

吾々にとって芸術は可能かという
　公案にビームを合わせる以外——
それぞれに手練れの道具を武器として
　このあきらかに駄目な時代に——
私達と切りむすぶわけにはいかないか

造形基礎I教場□鍋田庸男
絵画教場□菊畑茂久男・今泉省彦
細密画教場□渡辺逸郎

○

シルクスクリーン工房□岡部徳三
石版画工房□阿部　浩
銅版画工房□清野耕一・吉田克朗
木版画〈板目・木口〉教場□山本　進

○

写真工房□成田秀彦
《特別ゼミナール》芸術科学実験工房□IKIF・岩井俊雄
"映像の冒険"　昼間行雄・峰岸恵一

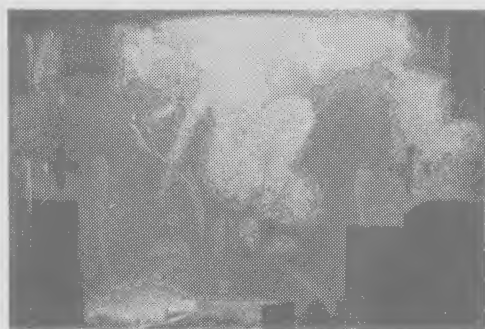
申込受付中!!学歴性別不問［事務局受付㊏AM11:00－PM7:00 PM1:00－PM7:00］

〒101 東京都千代田区神田神保町2　20第二富士ビル3F ☎03(3262)2529　要綱〒500円

地獄変

PANORAMA
OF HELL
HIDESHI HINO

日野日出志

絶賛発売中
定価1650円
㈱青林堂

憩写真帖単行本限定千部
定価3千8百円(税込み)
特別限定版（憩バッチ他オマケ付）
も考案中。詳細決まり次第お知らせ
いたします。

いこい写真帖

ICOi Photo
ILLUSTRATED

青林堂